

2011 年度

東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院

国際学術交流プログラム

来日研修報告書

2011 年度
東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院
国際学術交流プログラム
来日研修報告書

目次

1. はじめに
河南会議大学からの研修を受け入れて
2. 来日研修プログラム
 - 1) 研修生
 - 2) 研修プログラム日程
3. 研修参加者の報告および交流風景

1. はじめに

河南科技大学研修生を受け入れて

国際交流センター委員会（松永佳子）

2011年9月29日から10月6日までの八日間、中国河南省洛陽にある河南科技大学より四名の研修生を迎えた。河南科技大学とは平成21年に正式に国際交流の覚書を交わし、交流を深めている。

三度目交流となった本年度は、河南科技大学からの要望で、二名の医師と二名の看護師の計四名が来日した。

来日した翌日から研修が開始され、本学の紹介をはじめ、医療センター大森病院の見学、感染制御学の講義や実習、E-ラーニングシステムの紹介など、教職員のみなさまのご協力を頂き、たくさんのご経験いただくためのプログラムを準備した。

来日三日目には、本学の85周年記念式典が大田区民ホールアブリコで開催され、記念講演、ピアノコンサート、それに続く式典、祝賀会にもご参列頂くことができた。

医療センター大森病院の見学では、予定していた病棟以外にも、研修生の希望で幾つかの病棟には突然見学する許可を、研修生の学びのためにとご配慮いただいた看護部の皆様に、こころから感謝していた。

口腔外科医である郭福君先生には、本学教員および学生に対して、「中国の医療制度」についての講義を頂いた。中国の医療制度について知る機会に限られており、大変貴重な講義であった。学生たちは、慣れない英語の講義に戸惑いを見せていたが、最後には活発に質問がでており、国際的な視野を広げる良い機会となっていた。

現在、洛陽を象徴する花「牡丹」の掛け軸が、本学の会議室を飾っている。牡丹の花言葉のように、今後交流を深めることで、一層気品ある大学として双方が発展していくことができると感じている。

2. 来日研修プログラム

1) 研修生

看護師

張洛灵 (Zhang luoling) 整形外科病棟師長



李转珍 (Li zhuanzhen) 循環器内科病棟師長



医師

郭福君 (Guo fujun) 口腔外科医局長



張超 (Zhang chao) 耳鼻咽喉科医局長



2) 研修プログラム日程

月日		時間	内容	備考
2011年 9月29日	木	21:45	羽田到着	CA183 北京⇒羽田 APA Hotel
9月30日	金	9:45-10:00	歓迎の会	
		10:00-10:30	本学の紹介 教授 岡田 敦子	
		10:40-12:10	中国の医療の紹介(中国) 医師 郭 福君 先生	
		12:15-13:30	昼食会 BUONO	
		14:00-15:30	学内オリエンテーション	
10月1日	土	9:00-12:00	自由行動	
		13:00-19:30	85周年記念式典への参加	
10月2日	日	9:00-14:00	都内観光(浜松町からバス 皇居⇒浅草⇒昼食⇒水上バス⇒浜松町)	
		15:00-19:00	都内観光 銀座/秋葉原でお買い物 その後夕食	
10月3日	月	9:00-12:00	本学学生(2年生)への講義 医師 郭 福君 先生	
		13:30-17:00	感染制御学 講義と演習 教授 小林 寅喆	
10月4日	火	9:00-12:00	東邦大学医療センター大森病院見学 病院看護部	通訳: 教授 近藤 麻里
		14:00-16:00	東邦大学医療センター大森病院見学 病院看護部	
10月5日	水	10:00-12:00	e-learning紹介 准教授 中原 ルリ子	
		13:30-15:00	感染制御学 演習 教授 小林 寅喆	
		15:15-16:00	研修振り返り	
		16:00-16:30	修了書授与式	
		18:30-20:00	送別会 梅の花	
10月6日	木	15:15	帰国	CA926 成田⇒北京

3. 研修参加者の報告および交流風景

日本東邦大学研修感想文

中国河南科技大学第一附属医院 張洛灵

2011年9月29日私達一行4人がCA183便に乗り、日本東邦大学看護学部への研修に向け出発しました。短い一週間でしたが、沢山の感動をし、得るものが多くありました。日本人の優しさと礼儀正しさ、仕事に対する真面目さがとても印象的でした。また、東邦大学看護学部部長高木先生をはじめとする先生方々のいたれりつくせりのご招待をいただき、非常に感謝します。

まず、近藤先生に東邦大学看護学部の歴史の変遷と教育事情を教えていただいたことを通して、貴大学が文化的な積み重ねが厚く、教育の質が高い有名な大学であることが分かりました。

小林先生の感染制御学のご講義と実験を通して、手洗いの必要性を再認識させられました。中原先生のe-learningの講義と演習では看護を勉強する新たな学習方法を見せていただき、学生の学習意欲を引き出せる良い方法だと興味深く思いました。

大森病院を見学させていただくことを通して、院内の静かなで清潔な環境と、患者さんのため設置されたいくつか図書室、病棟内に患者さんに便利な設備など、いろいろ勉強させていただいたことがたくさんありました。

研修の合間に日本の歴史、文化、飲食、電子技術などにふれるようにツアーを手配していただき、とても感謝しています。皇居、銀座、秋葉原、様々な日本料理、エレベーターの右通行、繁華街の秩序、閑静な住宅街、時間厳守の習慣、挨拶と礼儀等々、至る所に日本の独特な居心地のいい雰囲気が漂っていました。

短い研修生活ですが、私の視野が広がり、今後の仕事と教育にはとても役に立つと確信しております。

最後になりますが、高木部長を始めとする東邦大学看護学部の先生方々に心より感謝します。有難うございました。

日本東邦大学研修感想文

中国河南科技大学第一附属医院 李転珍

2011年の収穫の秋に、私は運がよく病院から研修生として日本東邦大学に派遣してもらいました。私たち一向4人は2011年9月29日に日本の土に踏みました。短い時間でしたが、沢山の思い出が残り、収穫が多い1週間でした。

日本に到着して、まず、近藤先生の暖かい出迎えをいただきました。大学は私達のために環境のいいホテルを手配し、周密な研修計画をたててくださいました。高木学部長をはじめとする先生方に東邦大学看護学部の概況とカリキュラムなどを紹介していただきました。特に、人間性を重要視するカリキュラムが印象的でした。

看護学部の先生方がお忙しい中、わざわざ私達に講義をしてくださったり、実験のやりかたを教えてくださいました。小林先生など先生方々の仕事に対する熱心さと科学者としての資質には、感心しています。また、学部の教育環境を見学させていただき、完備された教育環境が素晴らしいだと思います。

東邦大学医療センター大森病院を見学させていただきました。規模の大きい病院で患者さんが多かったですが、忙しいながらも清潔で、秩序があって、そこで働く職員が幸せだなあと感じます。看護部長が看護のことを紹介してくださいました。充足な人的資源が羨ましいと心から思いました。看護師のほかに、ヘルパーさん、クラークさん等が病棟に配置されています。看護部の目標管理の元で、病院全体が患者さんによりよいケアを提供しようと努力されている姿が素晴らしいだと感心しています。

また、東京一日観光を通して、印象に残ったのは、市内建築の色が穏やかであることと、道路が狭いですが交通渋滞があまりないことと、電車や地下鉄の駅が広いし、出口が多く、道順の指示が完備されていること、駅と車内が静かだし、人々が順序よく切符を購入したり、電車に乗り降りをしていることなどです。日

本が先進国でありながら、人々が礼儀正しいし、知合いではなくても目線が合ったら会釈をしたりすることなど、至るところに文明と礼儀が漂っています。

短い研修交流を通して、日本の文化には少し理解することができました。東邦大学の先生方と学生方が暖かく接していることと、仕事と勉強に熱心に取り込んでいることが私達に深い印象が残りました。このような機会に恵まれてとても幸運だと思います。心より東邦大学の皆様に感謝します。これからもこのような交流が末長く続けるよう、また、臨床看護と看護教育において更なる交流ができるようにお祈り申し上げます。

研修感想文

中国河南科技大学第一附属病院張超

中国河南科技大学第一附属病院郭福君

この度、東邦大学看護学部において研修させていただき、たいへん勉強になりました。有難うございます。自分達の感想を次のようにまとめています。

日本が礼儀正しい国であることを実感しました。お互いに尊重し合いながら、気持よく仕事と生活を行なっていることに感心しています。

東邦大学の皆様が教育にたいして非常に熱心に臨んでいることを実感しました。管理においてしっかりした規則があり、皆が決まりにそって自分の行動をとっていることが素晴らしいだと思います。

看護教育においては、先生と学生の間には、信頼し合う関係があります。授業において、学生がただ聞いているのではなく、積極的に先生に話をかけることが印象的でした。これが新しい知識の吸収と内化に必要な学習行為だと思います。学生の臨床実習においては、中国と異り、大学の先生がずっと付き添っている形になっています。これは学生が何か問題がある時、その場でサポートすることができるので、とてもいい制度だと思います。

外来の患者診察は、ほとんど予約制だと聞きました。これは患者と十分なコミュニケーションをとることができ、よき医療行為が行なわれるように環境が整っている現れです。また、先進な医療設備が整っており、それにより、治療する前に患者の病状を全面的に把握することができ、医療ミスと訴訟を避けることができます。

大学と病院において、管理が整っていることが印象的でした。何処にいても秩序よく流れていることには感心しました。

今回の研修は短い期間でしたが、非常に有意な時間となりました。勉強したことをできるだけ自分の仕事にとりいれて頑張っていきたいと思います。

有難うございました。

交流風景



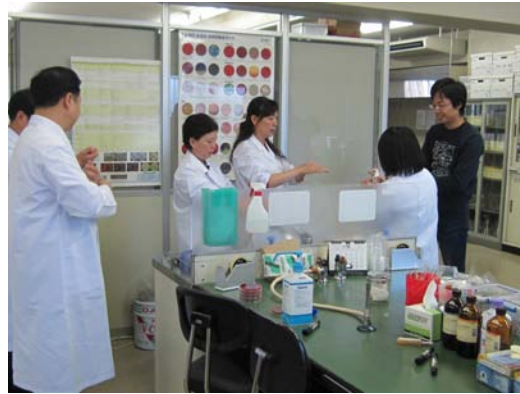
郭福君 先生からの教員に向けた講演



E-ラーニングの紹介（OAルーム）



郭福君 先生からの学生に向けた講義



感染制御学の講義と演習



東邦大学医療センター大森病院見学





修了式



集合写真

2011 年度 国際交流センター委員会

委員長	近藤 麻理
副委員長	岡田 敦子
委員	松永佳子
	佐山 理絵
	三條真紀子
	中澤 千佳

2011年度

東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院
国際学術交流プログラム研修報告書

発行日 2012 年 2月 7 日

発行 東邦大学看護学部 国際交流センター委員会

〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

TEL 03 (3762) 9881